

## 膠原病・アレルギー内科

### 1. 2006 年度の目標及び方針

膠原病・アレルギー内科は関節リウマチ、膠原病、膠原病類似疾患、アレルギー疾患、痛風などの診療を行う科である。当科ではこれらの疾患の診断や治療にあたり、文献を調査して日本および世界で認められた最新の診断方法・治療方法を取り入れて的確な診断と高い治療成績を得るように努力している。関節リウマチの治療においても生物学的製剤や新しい免疫抑制薬、さらにはリンパ球除去療法、末梢血幹細胞輸血療法などを細心の注意を払いながら積極的に使用して治療成績向上を目指していくつもりである。

当科は南房総地域のリウマチ・膠原病・アレルギー・痛風の診療の中核として地域医療に貢献するだけでなく、さらに広く安房医療圏外、千葉県外からの患者さまの診療に耐えうるレベルの高い医療を目指している。そのなかで様々な社会的背景をもつ患者さま個々のニーズに合った医療を実践していくことが重要と考えている。さらに整形外科、呼吸器内科、皮膚科、リハビリテーション部などと連携して様々な角度から患者さまの診療ができるように心がけている。その一つとして昨年に立ち上げたリウマチ教育入院システムを本格的な恒久性のあるシステムにする。医師、リハビリテーション部、薬剤部、栄養部、総合相談室のスタッフを集めて「亀田リウマチサポートチーム」を作り、患者さまのリウマチ自己研修用に執筆した本をリウマチ教育入院の教科書としても利用して、今年度はさらに拡充していく。さらに、外来患者さま向けのリウマチ教室を立ち上げる予定である。

2005 年度もジュニアレジデントならびにシニアレジデントが当科で研修を行ったが、2006 年度はジュニア・シニアレジデント教育プログラムの充実を図る一方、レジデント指導医を育成するために、米国で教育を受けたリウマチ膠原病専門医が 8 月から当科スタッフに加わる予定である。

ジュニアレジデント、シニアレジデントともに積極的に学会発表を行い、とくにシニアレジデントは原著論文を作成して欲しい。今年もリウマチ膠原病関係の研究会を当科で主催する予定である。

### 2. 2005 年度評価

2005 年 9 月に以前当科にて診療を行っていた本島部長と中下医師が再び当科に加わり、膠原病全般だけでなく、アレルギー疾患、膠原病に併発する呼吸器疾患や感染症の診療において、強力な体制をとることができるようになった。診断・治療した疾患の種類も、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群、多発性筋炎、強皮症、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、ベーチェット病、血管炎症候群、サルコイドーシス、線維筋痛症、リウマチ性多発筋痛症、成人 Still 病、不明熱、痛風、高尿酸血症などリウマチ・膠原病に加えて、種々のアレルギー疾患、気管支喘息、間質性肺炎などの呼吸器疾患、深在性真菌症など多岐にわたった。科の名称も、「膠原病内科」から「膠原病・アレルギー内科」と変更した。クリニックでの標榜名は「リウマチ・膠原病・アレルギー内科」となった。

関節リウマチの治療では、米国では標準の治療薬となっているメソトレキサートによる治療を積極的に行い、治療例数では千葉県では 1、2 を争う状況である。また、リウマチ患者さまの要請に応じて生物学的製剤を直ちに取り入れて良好な治療結果を得ている。

病棟では若干名のシニアレジデント、ジュニアレジデントの教育を行った。2005 年度前半は人員不

足のために総合診療科と協力して診療を行っていたが、前記のように診療体制が整ったので、後半からは独立して診療を行っている。

外来患者数は増加の一途をたどっており、月曜日から土曜日までほぼ毎日3つの診療室で診療を行った。鴨川市外の木更津市や君津市からだけでなく、安房医療圏外の茂原市や市原市からの患者さまが増加しつつある。安房医療圏外での医師会や研究会でリウマチ、膠原病、アレルギー等の講演を行い、医師会の先生方と病病・病診連携を推進してきたことも患者数の増加の一要因と考えている。南房総のリウマチ、膠原病、アレルギー診療の中核病院として、南房総全域からリウマチ関係の医師に集まっていた鴨川市内で南総リウマチ研究会を年2回開催した。

### 3. スタッフ紹介

本島新司(部長): 1976年岐阜大学医学部卒。東京共済病院、獨協医科大学をへて1998年当院へ。2004年から国立病院機構宇都宮病院へ。2005年9月より再び当科へ。専門はアレルギー、膠原病、呼吸器、感染症。

日高雄二(部長): 1978年東京大学医学部。ミシガン大学リウマチ内科助教授、帝京大学第3内科助教授を経て2003年11月より当科へ。専門は関節リウマチ、痛風、遺伝性プリン代謝病。

中下珠緒(医員): 1999年琉球大学医学部卒。当院で初期研修、当科で後期研修を終了後、2004年国立病院機構宇都宮病院へ。2005年9月再び当科へ。守備範囲はリウマチ、膠原病、アレルギー、呼吸器。

藤井健司(シニアレジデント): 1998年徳島大学医学部卒。2004年5月から当科シニアレジデント。2006年5月から亀田リハビリテーション病院へ。守備範囲はリウマチ、膠原病。

笠原由貴(シニアレジデント): 2003年埼玉医科大学卒。同大学リウマチ膠原病科をへて、2006年4月から当科後期研修を開始。

小橋川剛(外来診療非常勤): 東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター。専門はリウマチ、膠原病。

安田光徳(外来診療非常勤): 順天堂大学リウマチ膠原病内科。専門はリウマチ、膠原病。

初期研修医、後期研修医が随時ローテーションで当科にて研修を行っている。

### 4. 年間活動内容と実績

2005年4月から2006年3月までの膠原病内科外来の診療患者数は延べ1か月約1,700名、年度で約20,000名であり、2004年よりも増加した。入院患者は1日あたり10名から20名の間であった。他科入院患者のコンサルト約200名であった。

診断・治療した疾患: 関節リウマチ、若年性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、ベーチェット病、血管炎症候群(大動脈炎症候群、側頭動脈炎、顕微鏡的多発動脈炎、結節性多発動脈炎など)、サルコイドーシス、線維筋痛症、リウマチ性多発筋痛症、成人Still病、RS3PE、再発性多発軟骨炎、感染性関節炎、回帰性リウマチ、痛風、高尿酸血症、間質性肺炎、各種アレルギー、各種感染症。

### 5. 教育関係

2005年度は初期研修医、後期研修医若干名が当科で研修を受けた。2006年度も初期研修医、後期研修医がローテーションで当科にて研修予定であり、後期研修医1名が当科で3年にわたる研修を開始する予定である。随時、カンファランス、ミニレクチュアなどを行った。

## 6. 学術関係

### 1)学会発表・講演

中下珠緒、本島新司：経過中に結核症を合併した膠原病患者の検討 第49回日本リウマチ学会総会 2005年4月17-20日

中下珠緒、本島新司：経過中に侵襲性肺アスペルギルス症を合併し救命しえた皮膚筋炎の1例 第49回日本リウマチ学会総会 2005年4月17-20日

藤井健司、日高雄二 他：血栓性微少血管性溶血性貧血 (TMHA) 経過中に Reversible posteriorleukoencephalopathy syndrome (RPLS)を発症した皮膚筋炎(DM)の1例 第49回日本リウマチ学会総会 2005年4月20日

加藤隆志、日高雄二 他：3D-CT アンギオグラフィが診断上、有用であった上腸間膜動脈に病変を有する結節性多発動脈炎の一例 第49回日本リウマチ学会総会 2005年4月20日

本島新司：結核を見逃さないために 栃木県芳賀郡学術講演会 2005年4月22日

中下珠緒、本島新司：経過中に結核症を合併した膠原病患者の検討 第80回日本結核病学会 2005年5月12-13日

中下珠緒、本島新司：Ethionamide による SIADH を合併した肺結核の一例 第80回日本結核病学会 2005年5月12-13日

中下珠緒、本島新司：2004年に経験した結核症を合併した膠原病患者の検討 第17回日本アレルギー学会春季臨床大会 2005年6月2-4日

加藤隆志、日高雄二 他：Diagnostic usefulness of 3-dimensional computed tomographic angiography in polyarteritis nodosa with lesions of superior mesenteric artery 2005 EULAR2005年6月

本島新司：クラミジア肺炎 木更津医師会学術講演会 2005年9月26日

本島新司：膠原病と結核 安房医師会呼吸器勉強会 2005年9月29日

中下珠緒、本島新司：Clostridium difficile 感染における好酸急増多について 第55回日本アレルギー学会秋季学術学会 2005年10月20-22日

中下珠緒、本島新司：膠原病に合併した侵襲性肺アスペルギルス症の3例 第54回日本感染症学会 東日本地方会総会 2005年10月27-28日

中下珠緒、本島新司：トシル酸プラタストが著効した好酸球増多症の一例 第56回臨床アレルギー研究会 2005年11月12日

中下珠緒、本島新司：肺癌に合併し腹部症状の認められなかった偽膜性腸炎の一例 千葉感染症治療研究会 2005年11月25日

本島新司：結核の診断と治療 平成18年度服薬支援員養成講習会 2005年11月16日

中下珠緒、本島新司：インフリキシマブの反復投与により肝機能障害を生じなくなった強直性脊椎炎の一例 関東リウマチ 39;103-110:2005 本島新司：結核を見逃さないために 栃木県芳賀郡学

術講演会 2005年4月22日

その他、研究会等で発表、講演を行った。

2)論文

二木芳人、本島新司他：深在性真菌症に対する Vorikonazole の臨床試験日本化学療法学会雑誌  
2005;53(suppl.2):32-50

本島新司：喀痰中の好酸球と喘息の関係は? Q&A でわかるアレルギー疾患 2006;2:64-66

本島新司：食物アレルギー、山口徹他編集今日の治療指針 2006 医学書院 2006 . p584-585

日高雄二：モノクロナール RF 免疫複合体 日本臨床 63 増刊(7)124-126 . 2005

文責：日高雄二